

木立性ペゴニアの育て方

分類 シュウカイドウ科ペゴニア属

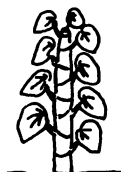
地下に球根や根茎を形成せず、地上に立ち上がって伸びるペゴニアです。花も葉も美しいうえ、家庭でも育てやすく、広く親しまれています。花壇用として馴染みの深いペゴニア・センパフローレンスもこの仲間です。



つる性型



矢竹型



多肉茎型



叢生型

木立性ペゴニアのいろいろな形態

栽培のポイント

置き場所

生育適温は17～25℃。4月中旬から11月中旬までは風通しのよい屋外で栽培します。

夏は明るい半日陰で、春と秋はよく日に当てて栽培します（葉やけを起こすことがあるので急に直射日光に当てることは避けます）。

11月下旬からは室内に取り込み、よく日の当たる窓辺に置き、最低温度を10℃以上に保ちます。

水やり

鉢土の表面が白く乾いたら、たっぷり水を与えます。真夏と冬は根腐れを起こさないよう、過湿に注意。夏と冬の乾燥する時期はダニの防止も兼ね、ときどき葉の裏側を洗い流すように水をやり、葉水を行います。

肥料

植替え時、元肥として緩効性肥料を与えます。春から初夏の生育期には、液肥を10日に1回程度、あるいは緩効性の固形肥料を2～3ヶ月に1回与えます。

植替え

5月、10月が適期です。

用土例

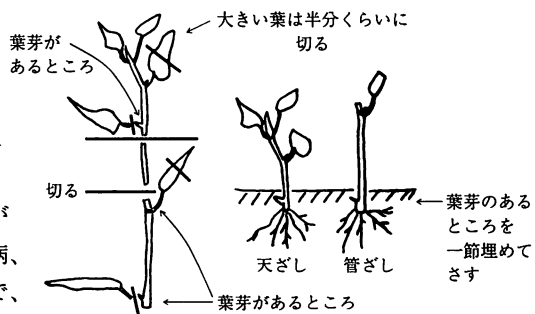
赤玉土、腐葉土、パーライトを6：3：1

病害虫

害虫では春と秋にアブラムシ、夏にダニが発生しやすく、病気では春と秋にうどんこ病、長雨の時期に灰色かび病が発生しやすいので、適宜薬剤等により予防、駆除します。

繁殖

4～5月または9～10月にさし木（茎挿し）します。



さし木の仕方



根茎性ペゴニアの育て方

分類 シュウカイドウ科ペゴニア属

多肉質のほふく茎が地下に横走りに這うペゴニアです。レックス・ペゴニアもこの仲間に含まれます。花は春に咲きますが、赤葉やメタリック風の葉、渦巻きの葉など、葉の観賞価値が高い品種が多く、主に観葉ペゴニアとして親しまれています。

栽培のポイント

置き場所

生育適温は17～25℃。

4月中旬から11月中旬までは風通しのよい屋外で栽培します。家の東側や木漏れ日の当たる樹木の下あるいは南側で70%くらい日よけをします。

11月中下旬からは室内に取り込み、最低温度を約10℃以上に保ちます。

水やり

鉢土の表面が白く乾いたら、たっぷり水を与えます。真夏と冬は根腐れを起こさないよう、過湿に注意。夏と冬の乾燥する時期はダニの防止も兼ね、ときどき葉の裏側を洗い流すように水をやったり、葉水を行います。

肥料

植替え時、元肥として緩効性肥料を与えます。春から初夏の生育期には、液肥を10日に1回程度、あるいは緩効性の固形肥料を3ヶ月に1回与えます。

植替え

5月または10月が適期です。(用土例 赤玉土、腐葉土、パーライトを6：3：1)

病害虫

特に問題となる病害虫は発生しませんが、枯れた葉や咲き終わった花をいつまでもそのままにしておくと病気の原因となるので、こまめに除去します。

繁殖

4～5月または9～10月にさし木(根茎挿しあるいは葉挿し)します。



根茎性ペゴニアのふやし方



青森市植物公園